老舗温泉旅館の名湯を守る元消防署員

No.94

老舗の温泉旅館を守る塚本開さん・陽子さん夫妻。

湯元　和みの湯
塚本　開・陽子

地域の安全から地域の温泉まで守る人

白神山地の麓、藤里町湯の沢温泉にあります温泉旅館「湯元　和みの湯」を経営する塚本開さん、陽子さん夫妻をご紹介致します。

「和みの湯」は、平成23年に後継者不足等を理由に閉館することとなった老舗温泉旅館を譲り受け、消防署員の夫と団体職員の妻というサラリーマンのお二人がご夫婦で務めを早期退職し、リニューアルオープンさせました。

元消防署員が守る「湯元　和みの湯」。
開湯の年代は不明ですが、江戸時代には浴場として営業していたようです。

もともと温泉好きで県内外各地の温泉に通っていたお二人が、地元の愛湯として利用していた前の旅館がその年の8月で廃業すると聞いていたお二人は、湯船で常連の住民らからの「なくなると寂しくなる」「お湯がもったいない」との声に、「町の名湯を守りたい」との思いが募り、当初は陽子さんが従業員を雇い営業する予定でしたが、地元の消防署に勤務していた開さんも一念発起、「一緒に第二の人生を」と二人で温泉旅館経営をスタートさせました。

これまで長きにわたり地域の安全を守ってこられた開さんは、この日から地域の名湯・地域の観光資源を守ることとなったわけです。

おもてなしの心で温泉を守る人

「和みの湯」はリニューアルオープンに合わせ館内の一部を改装しており、一番の売りは旅館裏手にある銚子の滝を眺めながら温泉を楽しんでもらえるよう新設した露天風呂で、江戸時代の紀行家、菅江真澄もこの滝を訪れたと記されている隠れた景勝地です。

銚子の滝を彩る白神の新緑、紅葉、雪景色など四季折々の風景と優しい泉質の名湯が、癒しの世界へといざなってくれます。

露天風呂の他にも、温泉利用者がリラックスしてくつろぎ、自由にお茶やコーヒーを楽しめるよう「談話ホール」も用意。「温泉を楽しんだ後は、ゆっくりとくつろいで、心を和ませてほしい」とのことでした。

また、「和みの湯」では、お客様に提供する野菜は旅館の周りの塚本さんの畑から採れたもの、地元食材でのおもてなしを心掛けております。畑のすぐわきからはきれいな清水が湧き出ており、クレソンやセリまで採れます。高級食材はありませんが、白神の大地で育まれた旬の食材を使った料理を楽しむことができます。

「露天風呂」も「談話ホール」も「野菜畑」もサービスのすべては白神山地を訪れる人、地元の方々に、「和みの湯」に来たらみんなに安らいでいってもらいたい、心から和んでいってもらいたいという塚本さんご夫婦のおもてなしの心の表れのように感じました。

大きな郷土愛で温泉を守る人

開業当初は、温泉旅館経営など素人の二人で果たしてやっていけるのかという不安もあったそうですが、温泉の常連客はもちろんのこと役場や町のいろんな方からの「よく決心して開業してくれた」「歴史ある名湯を守ってくれてありがとう」という言葉に後押しされここまで続けてこられた、「本当にやって良かった。旅館の経営は大変だけれども毎日充実している」と話してくれました。

滝の音、小川のせせらぎ、鳥の声、木のそよぎ、花の香。
白神に湧き出す「癒やしの湯」

温泉利用者のくつろぎの場となっている談話ホール。
だるまストーブをぐるりとソファーが囲みます。

地域を元気にしたい、地域に恩返しをしたい、地元を愛し、地元の良さを伝え、地元の資源を守り伝えていきたい。

塚本さんご夫妻の郷土愛にあふれたコメントに、このような事業者の方々に支えられ地域は成り立っていることを実感致しました。

旅館の裏手、遊歩道を少し行くと「銚子の滝」があります。
滝の手前には、菅江真澄の歌碑も見られます。

温泉を守る人から皆様へ

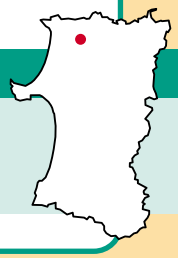
最後に、今回お読みになった方には是非「和みの湯」に足をお運びいただきたいと思います。少しぬるめのお湯にゆっくりと入っていただければ、なめらかなお湯に肌はしっとりつるつるで、昔から美人の湯と大切にされてきた名湯を実感していただけるものと思います。

白神山地「湯元　和みの湯」の“つるり”とした泉質を是非一度ご体験ください。

皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。

湯元 和みの湯

〒018−3201
秋田県山本郡藤里町藤琴字下湯の沢62
TEL 0185−79−2710



会員福祉共済
商工会員向けキャンペーン実施中!

期間中(H25.6.1〜H26.1.31)に会員福祉共済に加入された方に、もれなく

「図書カードを贈呈」します!

VEGETABLE OIL INK ※この紙は再生紙を使用しています。